



# 新毎日新聞

11月26日(金)  
2010年(平成22年)

発行所：札幌市中央区北4条西6-1  
〒060-8643 電話 0570-064-988  
毎日新聞北海道支社



高校生に大学の研究室を開放する「未来の科学者養成講座」が北海道大で実施されている。高校生が、自分の興味がある研究室を訪れ、大学の教官や大学生と一緒に研究するプロジェクト。鈴木章名誉教授がノーベル化学賞に北大で初めて選ばれており、北大は「若いうちから研究にふれ、世界に通用する科学者に育てたい」と期待している。【千々部好一】

### □■放課後に週3回

北大の北キャンパス(札幌市北区)で昨年4月に発足した先駆的な研究を行う創成研究機構。その研究棟の一室で、札幌開成高1年の入口凛太郎さんがオーストラリア人の特任助教、後藤デレックさんとともに研究に打ち込んでいた。

### 未来の科学者養成講座

北大

## 早期教育で才能伸ばす



トマトの根に寄生するネコブセンチュウを見る高校1年の入口凛太郎さん(左)と後藤デレックさん—札幌市北区の北海道大学で

### 少数精鋭で面白さ知る

生に交じって、ピペットを手に研究する入口さんは「生物が好きで、高校の先生に勧められて応募しました。高校では体験できないハイレベルな研究に早く触れ、いい刺激になる」と話

デレックさんは「科学の面白さを知るチャンスを与えたい。オーストラリアや米国では、高校生が大学の研究室を訪れるのは日常的。だが、日本では壁が高

い。凛太郎は実験器具の取り扱いにも慣れ、一人で任せられる」と目を細める。相談相手にもなっている北大農学部4年、中野智陽さんは「顕微鏡を動かすパソコンソフトを早くも習得し、大学生顔負けの熱心さに驚いています」と話す。

### □■研究発表会も

未来の科学者養成講座は、独立行政法人の科学技術振興機構が全国16大学に委託して行っている。研究者養成の早期教育プログラム開発が目的だ。

道内では北大だけで、昨年度から始まった。農学や理学、地球環境科学などの各研究院のうち、環境科学にかかわる九つの研究室で受け入れている。今年度は応募した高校生37人の中から10人が選ばれた。受講期間は9月から1年間。高校生は通える範囲で研究室を訪問する。苫小牧演習林や室蘭臨海実験所など北大の研究施設への見学旅行(1泊2日)、研究発表会もある。

養成講座は北大女性研究者支援室が担当する。同室では06、08年度に、女子中高生らに理系への関心を持ってもらおうと、科学実験の出前授業も行ってきたが、養成講座は、少数精鋭で密度の濃い内容が特徴。有賀早苗室長(農学研究院教授)は科学的な興味を持つ高校生に、早い段階から本物に触れさせ、才能を伸ばし育て研究者を目指すモチベーションを高める機会にしたいと話している。

—金曜日に掲載します